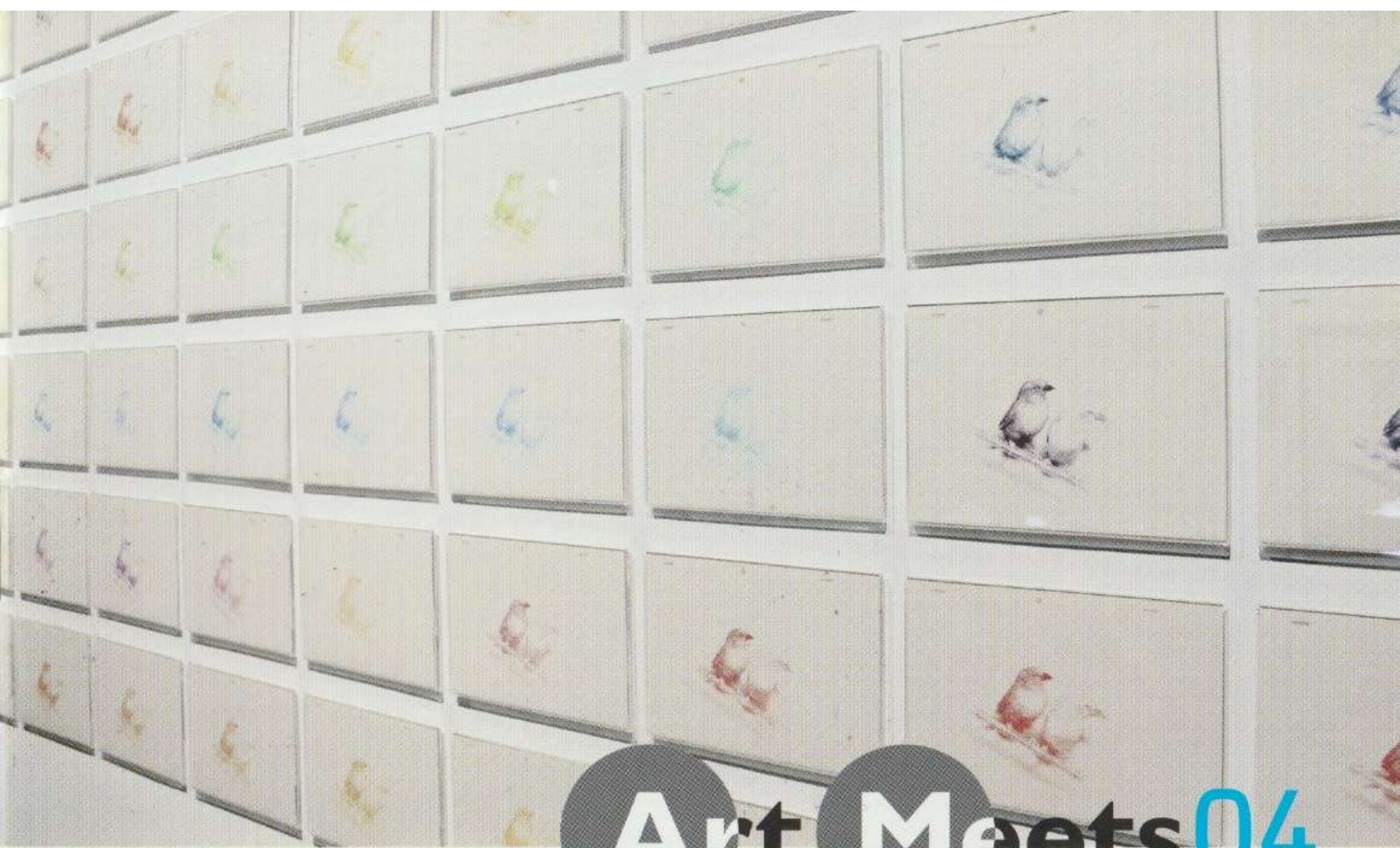
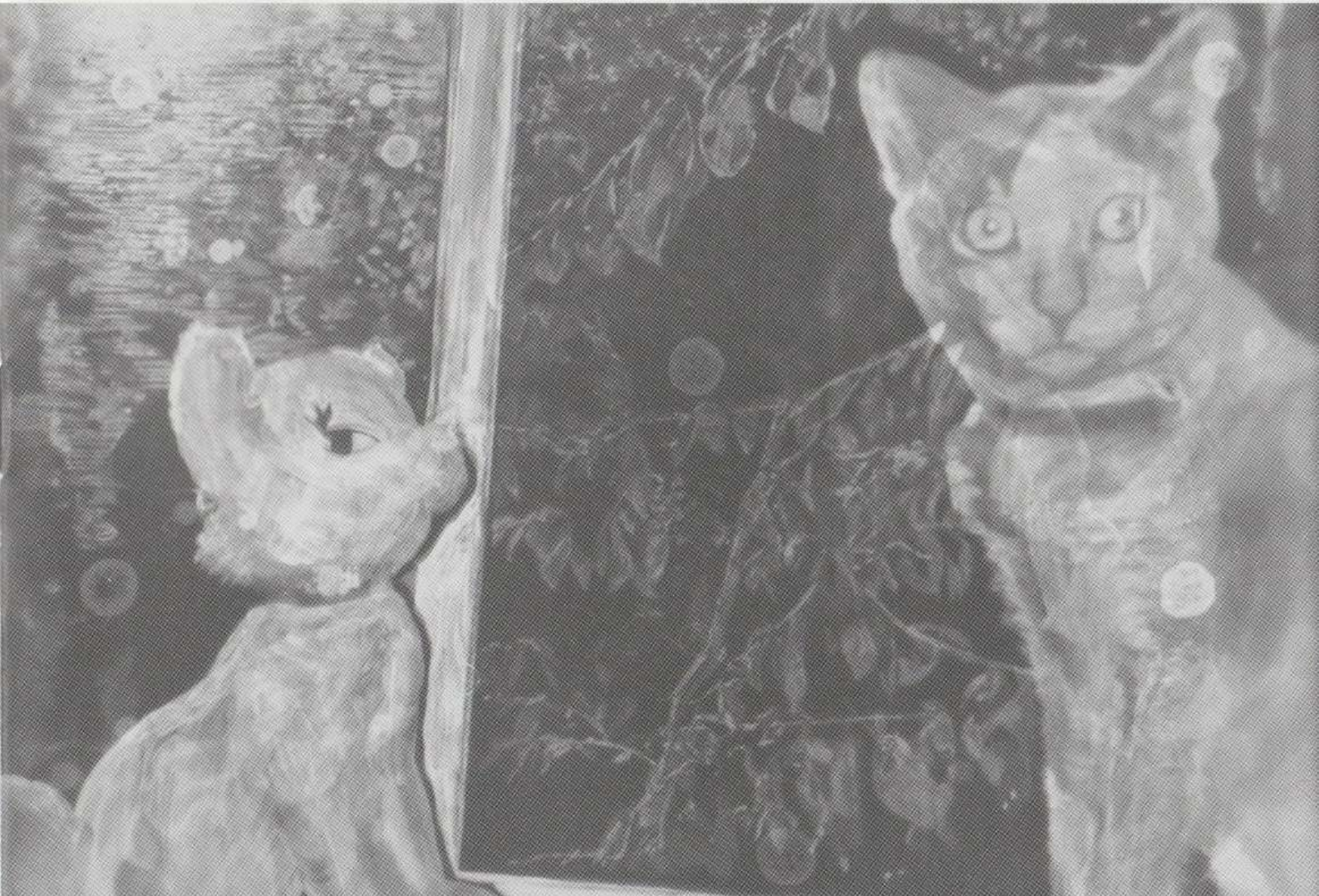




Art Meets04

田幡浩一 | 三宅砂織



TABATA Kouichi

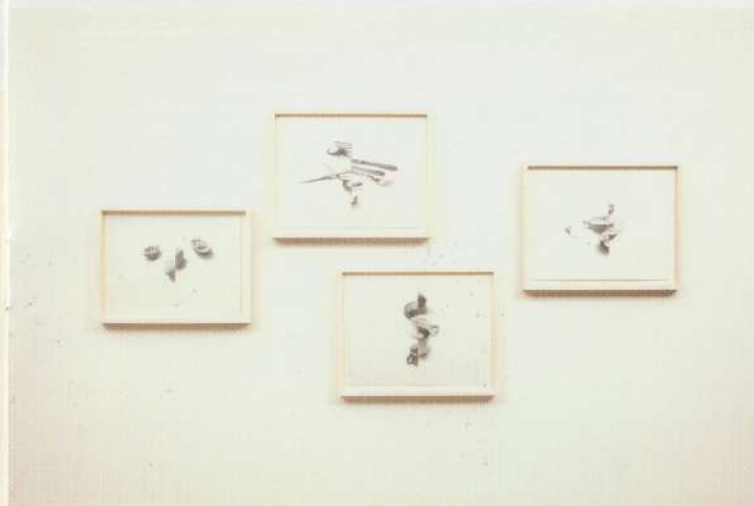
田幡浩一



72 color (bird) (2014)



72 color (bird) (2014)



One way or another シリーズ 2015-2016

絵の中で「何」をモチーフに描くのかは、僕の作品の中でも重要な部分であり、自分らしさが最も出ているところだと思っている。

ランダムに選んだわけでもなければ、強い主張のあるものを選んでいくというわけでもない。

絵画に昔からよく登場するものを選んでいるとは言えるが、実際のところはそれだけではない。

昨日は果物屋さんで、黄緑色のついた小ぶりのレモンを見つけて、いかにも絵画的なレモンだと思え、いくつか買って帰った。日差しが出ているうちに机の上に置いて、構図をあれこれ考える。何時間もレモンの配置に悩み、いざ画面に最初の筆を入れる。

しばらくすると最初に店で思い描いた印象と、何かが違うと思い始め一日中悩んだあげく、やはりレモンではなかったのかもしれない、とその一枚は諦めることにした。

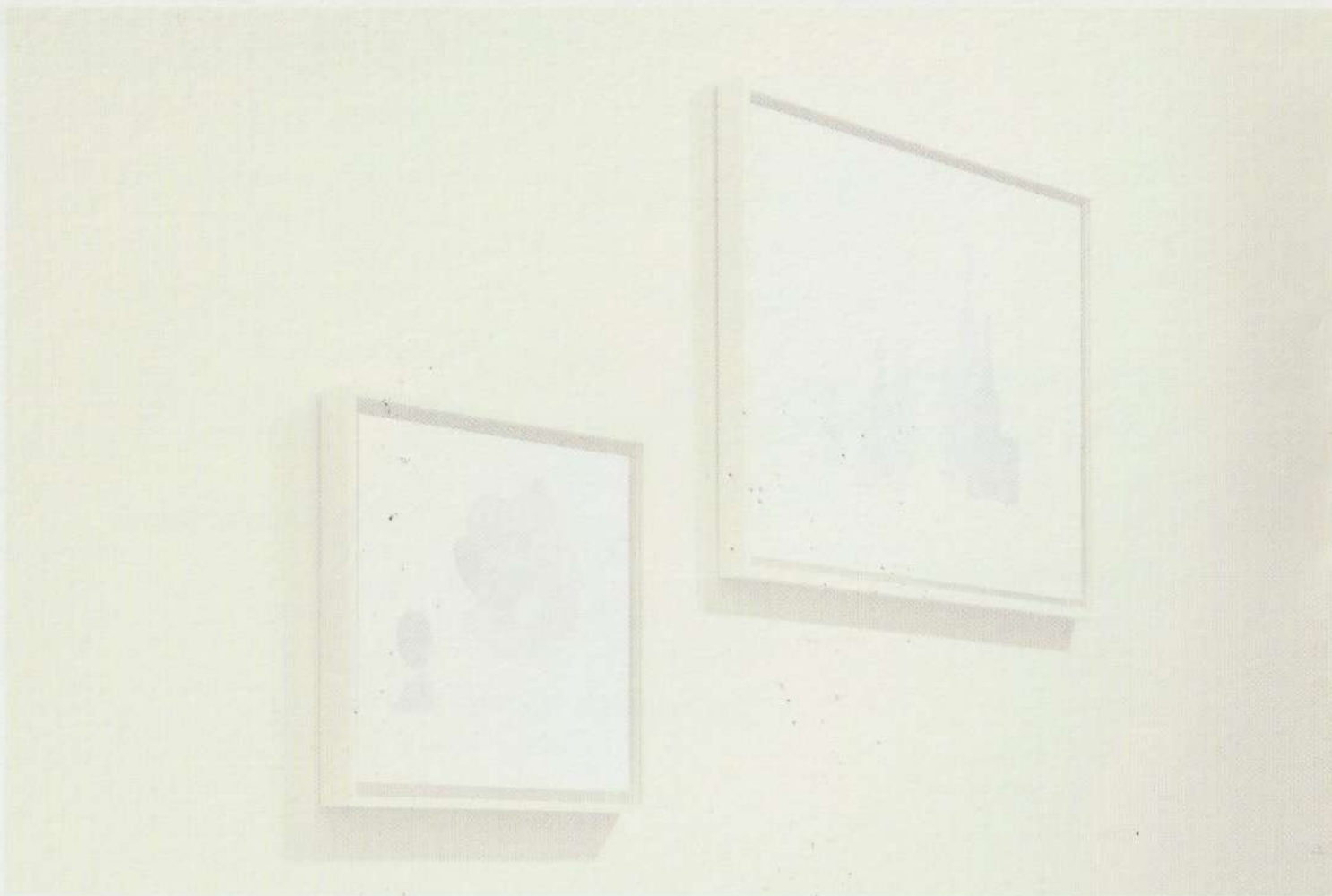
もしかすると隣に並んでいた、りんごだったらうまくいったのかもしれないもしくは洋梨だったらうまくいったのかもしれない。あれこれ家で考えるよりも、明日また果物店に行ってみようと思う。他にも描きたくするようなものに出会う可能性があるのだから。

描かれなかったレモンはしばらく机の上に飾っておこうと思う。

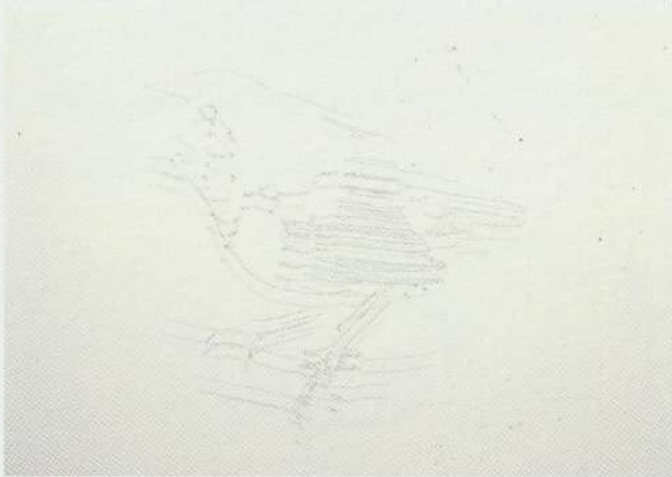


One way or another (lemon) 2015

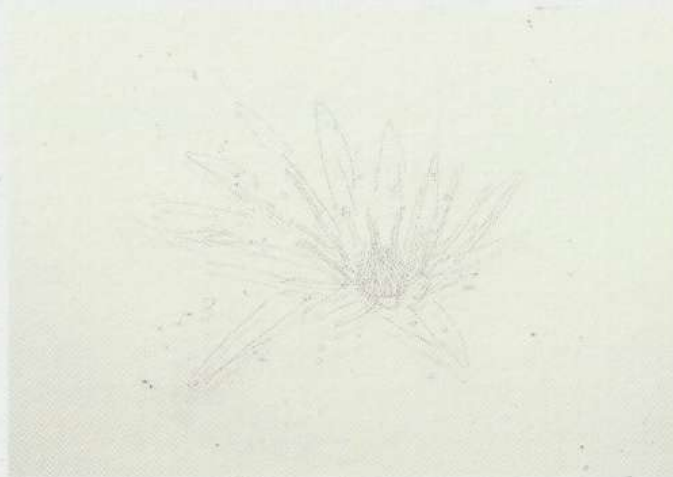
2017年3月 田幡浩一



《white still life #01》2014年 《white bottles #05》2014年



《track and trace (robin)》〈部分〉2010年



《track and trace (water lily)》〈部分〉2010年

TABATA Kouichi | 田幡浩一

1979年栃木県生まれ。2004年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。
2006年同大学院美術研究科油画専攻修了。2011年より公益財団法人吉野
石膏美術振興財団在外研修助成、公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修
助成などを得て、現在はベルリンを拠点に活動。主な個展に2016年「one way
or another」(ギャラリー小柳、東京)、2015年「Scape」(大和日英基金、ロンド
ン)、2011年「Trace of images」(ギャラリー小柳、東京)など。主なグループ展
に2015年「Drawing Biennial 2015」(Drawing Room、ロンドン)、2014年
「Temporal Measures」(White Rainbow、ロンドン)、「クロニクル1995-」(東
京都現代美術館、東京)、2013年「THE ECHO 一光の拡散ー」(ケルン日本
文化会館、ドイツ)、2006年「Trial Balloons」(カスティージャ・イ・レオン現代美
術館、スペイン)、2005年「J'en rêve」(カルティエ現代美術財団、パリ)など。作
品は、東京都現代美術館(東京)、トヨタ・アート・コレクション(愛知)、原美術館(東
京)に収蔵されている。

田幡浩一

田幡浩一は、絵画制作を出発点として、映像作品では、動きではなく色や形といった絵画の要素に注目し、絵画では鑑賞者に動きを想起させる作品を制作しています。花や鳥など、身の回りにあるものをモチーフとしながらも、作家の感情や内面を排除し、素材や画材がもたらす制限や枠組みを用いて作品を完成させる手法をとります。

ドローイングと映像で構成される《72 colour (Birds)》は、72色の色鉛筆を使って同じ鳥のモチーフを描いたドローイングが、コマ撮りアニメーションとして映像に置き換えられ、繰り返し再生されます。そこでは鳥の動きは描かれず、虹色の光に照らされたようにも見えるその姿も、72枚のドローイングの集積とその色の変化であることに気づきます。72枚のドローイングが数秒の映像に集約され、それぞれの色を認識する間を与えずに繰り返されたとき、映像はまるで多様な色彩の層を持った一枚の絵画のようにあらわれてきます。白い色鉛筆で白い紙に静物が描かれた《white still life #01》では、ある一定の角度からの光により、鑑賞者は斜めからの視点に立つことで描かれた画像を見ることができます。光があることで見ることができるという当たり前の現象を絵画に置き換えたとき、私たちは色や形の前にまず光によって対象を認識していることに改めて気付かされます。近作のシリーズ〈one way or another〉は、2つの紙、もしくはパネルを、上下（または左右）に、1度あるいは2度ずらした状態でモチーフを描き、最終的に一枚の矩形の絵画として展示します。また、〈track and trace〉のシリーズでは、鳥や睡蓮の花を少しずつ移動しながらアクリル板に描き写すことで、鳥などを描いた線が解体されていきます。

この切断・解体された作品を見ると、鑑賞者は自然と頭の中で対象を元の形や位置に戻したり、どのように描かれたのかを想像するでしょう。動きや速度を表した未来派の絵画や、複数の視点や空間を1枚の画面に収めたキュビズム絵画のように、作者によって与えられる視点とは異なり、鑑賞者それぞれの視覚と認識、想像力によって絵画の中に時間や動きが生み出されます。それは私たちが目の前にある対象を認識するとき、そこにある姿や形だけでない、あり得たかもしれない多様な視点のあり方を示唆するようでもあります。

田幡浩一

1. 《72 colour (Birds)》 2014年 72枚のドローイングと映像
2. 《track and trace (water lily)》 2010年 アクリル板、エナメル 各36.4×48.4cm 全3枚
3. 《track and trace (robin)》 2010年 アクリル板、エナメル 各48.4×36.4cm 全4枚
4. 《one way or another (fig) #03》 2015年 紙、鉛筆 29.7×38.7cm
5. 《one way or another (coffee and espresso) #02》 2016年 紙、鉛筆 29.7×38.7cm
6. 《one way or another (knife, spoon and fork) #03》 2015年 紙、鉛筆 29.7×38.7cm
7. 《one way or another (walnut) #01》 2015年 紙、鉛筆 27×36.5cm
8. 《one way or another (flower)》 2015年 紙、鉛筆 38.7×29.7cm
9. 《white bottles #05》 2014年 紙、白色鉛筆 57.5×82.2cm
10. 《white still life #01》 2014年 紙、白色鉛筆 40.1×47.5cm
11. 《white skyscape #04》 2014年 紙、白色鉛筆 68.1×98cm

三宅砂織

1. 《The missing shade 10-1》 2015年 ゼラチンシルバープリント 194×131cm 個人蔵
2. 《噴水》 2012年 ゼラチンシルバープリント 73.3×48.2cm
3. 《The missing shade 8-1》 2015年 ゼラチンシルバープリント 60.6×45.4cm
4. 《The missing shade 7-1》 2015年 ゼラチンシルバープリント 60.6×45.4cm
5. 《The missing shade 6-1》 2015年 ゼラチンシルバープリント 73.3×48.2cm
6. 《Cats (3)》 2012年 ゼラチンシルバープリント 47.8×67.2cm
7. 《懷中電灯》 2012年 ゼラチンシルバープリント 39.3×59cm
8. 《螺旋階段2》 2012年 ゼラチンシルバープリント 80×58.7cm
9. 《The missing shade 11-1》 2015年 ゼラチンシルバープリント 80×93.7cm
10. 《Cats (1)》 2012年 ゼラチンシルバープリント 47.8×67.2cm
11. 《Cats (2)》 2012年 ゼラチンシルバープリント 47.8×67.2cm
12. 《The missing shade 21-2》 2017年 ゼラチンシルバープリント 71×101cm
13. 《The missing shade 20-2》 2017年 ゼラチンシルバープリント 71×101cm
14. 《The missing shade 22-2》 2017年 ゼラチンシルバープリント 79.5×52cm
15. 《The missing shade 24-2》 2017年 ゼラチンシルバープリント 50.8×49.6cm
16. 《The missing shade 23-2》 2017年 ゼラチンシルバープリント 37.5×51cm

Art Meets 04

田幡浩一 | 三宅砂織

2017年3月31日発行

企画・発行 アーツ前橋

編集・執筆 五十嵐純 (アーツ前橋)

撮影 木暮伸也 表紙上、P3下、P4、P5、P6、P7 表恒匡 表紙下、P8

アーツ前橋

ARTS MAEBASHI

tel: 027-230-1144 fax: 027-232-2016

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16

<http://artsmaebashi.jp/>

5-1-16, Chiyodamachi Maebashi Gunma 371-0022